

平成30年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- ①『あいさつ自分から』を合言葉に、進んで挨拶する生徒を育てる。 ②心の通い合う教育活動を展開し、自尊感情を高め豊かな心を育てる。
- ③基礎・基本の学力定着を図り、それらを活用する能力を育てる。 ④家庭・地域との連携を密にし、地域に信頼される学校を創る。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
(1)学力向上アクションプランを作成し、共通理解のもと計画的に取り組む。授業改善アドバイザーや拠点校指導員を活用し、若手教員の指導力向上、今年度、数学、技・家、保体、国の研究授業を実施、校外教科会の積極的参加、授業改善研修の実施。朝学習＋課題学習を通して、家庭学習の定着に取り組んだ。月毎に時間割を作成し、出張等による自習を減らし、授業確保に努めた。3年生は、後半7時間目を実施した。 (2)教育支援員、巡回相談等を活用。月1で生徒支援委員会を開催し、情報共有に努め個に応じた指導を心がけた。 (3)担任による昼食指導を基本とし、家庭科では、成人病予防のための野菜を摂るバランスの良い食事等を保健所と連携しながら学習。 (4)部活動の充実を目指し、全員顧問制、体育の授業において、体力・運動能力の向上を目指し、授業時の補強運動、バランスの取れた運動を実践した。	(1)落ち着いた環境の中で学習に取り組んでいるが、評価アンケートの「授業に対して自ら意欲的に取り組んでいる」では、33%の生徒があまり取り組めていないと答えている。学習規律を確立しながら、学習意欲を向上させ、家庭学習の習慣化をはかり、学力向上に取り組んでいきたい。 (2)特別な支援を必要とする生徒の情報より共有化し、保護者や関係機関との連携を深め、指導を進めたい。 (3)(4)保護者に協力を要請しながら、指導を推進していきたい。		
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もががすしやすい学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
(1)「時を守り 場を清め 礼を正す」を学校生活の基本とし、共通理解、共通実践に努めた。 (2)道徳年間指導計画を作成し、時間の確保に努め、公開授業を年2回実施。道徳教科化へ向けての校内研修の実施・2回 (3)いじめ防止基本方針の作成。教育相談(年3回)の実施。いじめアンケート実施。SC、SSW等関係機関を活用し心のケアに努める。 (4)「未来への扉」を活用し、目標を持たせ、進路指導に取り組み、学校行事等を通して、社会的自立に必要な能力の育成に努めた。	(1)規範意識は、年々向上している。今後、良い集団づくりに視点を置いて、取り組んでいきたい。 (2)昨年度に比べ減少傾向にあるが、新たな課題を抱えている不登校もあり、引き続き別室指導や関係機関も相談しながら、指導を進めていきたい。 (3)評価アンケート「学校にはいじめを許さない雰囲気がある」で、あると答えた生徒は、53%であった。いじめを許さない土壌づくりをすすめていきたい。 (4)学校生活や行事を通して、社会的自立に必要な能力の育成に努めていきたい。		

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
(1)教員の年齢層が、50代14名、40・30・20代14名と二分化している現状の中で、ベテラン層から若手へのしっかりとした指導を行うことで、全員が学校全体を見る視点を養いたい。業務改善においては、業務の効率化推進と部活動の負担軽減を目標に取り組んだ。 (2)土曜参観5月・1月、体育大会の土曜日開催、参観週間5月・11月等、地域に開かれた学校をめざし、HPの更新や連絡メールでの行事参加の呼びかけなどを積極的に行う。地域の小学校・高等学校と連携して合同研修会や参観授業、高校生による防災研修報告会の開催。	(1)教師一人ひとりが学校全体を見る視点を持ち、職務に取り組む体制を築きたい。そのために、校内研修等を充実させ、学び合いの場をつくりたい。部活動指導の方針を作成し、取り組んでいきたい。 (2)地域や近隣の小学校、高等学校と更に連携を進め、開かれた学校づくりを目指したい。		

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
(1)学校施設、通学路における危険箇所等の確認を随時行い、発見すれば、その日のうちに改善する。 (2)「学校は地域の防災拠点であり、地域の子どもの命を守る使命がある」という認識のもと、教員は常に危機意識を持つこと、生徒には、年2回の防災訓練を通じて、とっさの行動力と自分の命は自分で守る意識を身につけさせる。地域保育園と連携し、防災訓練や誘導訓練の実施。	(1)(2)本校校舎ができて、10年以上が経つ。傷んできているところも出てきている。職員全体で、校舎内だけではなく、屋上庭園、ベランダ等も意識し、何かあれば校務員さんを中心に対応し、校内の危険箇所をなくすよう心がけている。樹木の剪定も特に道路との関係をみながら行っている。通学路に関しては、工事等あれば生徒に伝えるなど危険回避を心がけている。交通安全教室、防災訓練等更に充実させていきたい。評価アンケートで「地震や火災が起こった場合、どうしたらよいかを知っている」では、90%が知っていると答えている。		

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
(1)「自学自習 共汗共生 敬愛慈恕 文化創造」の精神で、環境教育や命の教育など、特色ある教育を実施する。交通安全教室1年・修学旅行・宿泊学習1年・参観週間・体育大会・妊婦赤ちゃん抱っこ体験・性教育講演会・ストレスマネジメント研修会・収穫祭・トライやるウィーク・太陽光発電学習・わくわくオーケストラ・ラブリバー活動・ユネスコセミナー・校外学習2年・人権教育講演会・防災ジュニアリーダー報告会1年・子ども文化わくわく体験スマイル学級・陶芸体験スマイル学級・生徒会立会演説会、選挙・球技大会3年・新春行事・邦楽鑑賞会・中学校訪問・21世紀の森活動等 (2)今まで活動を中心的に、学校が組織的に特色ある教育活動を継続していけるよう、担当者と担当部署を明らかにしていく。	(1)ユネスコスクールとして環境教育・活動を意識しながら、地域清掃活動や地域行事・募金活動等に参加していくことで、社会貢献となることや自己肯定感の醸成につなげたい。 (2)学校教育全体の位置づけを再構築していった結果、持続可能な活動を、学年ごとや委員会活動、部活動等にわけて取り組んで行くことが出来てきた。引き続き取り組んでいきたい。		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組とその成果	課題と改善策		
(1)(2)研究テーマは「自ら考える場面を設定し、活用・応用できる能力を身につける」と設定した。自ら考える時間を授業の中に入れ込み、発表できる力につなげたい。	(1)(2)評価アンケートより「宿題、課題等に意欲的に取り組んでいる」69%、「宿題、課題以外にも家庭で予習・復習に取り組んでいる」49%、「定期テストにしっかり準備をしてのぞめている」69%。家庭学習の定着を土台とし、活用・応用力の育成を目指していきたい。		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		